

## 成人歯科矯正治療 ～歯科矯正専門医ができること～

澤端 喜明 先生

近年、社会が高齢化の傾向にあり中高年者の歯科治療のニーズが高まってきている。その中で歯科矯正専門医は歯科矯正治療によって可能な治療結果を連携する一般歯科医に提示することによってあらかじめ理解してもらい、より高い品質の歯科治療を患者に提供する必要がある。成人歯科矯正治療においては若年者に比べ審美的な要求が高い傾向があり、う蝕、歯周疾患、エンドや欠損歯の問題によって通常とは異なる治療方針を選択することも多い。今回は成人歯科矯正治療を行った3症例を提示し、歯科矯正治療によって治せる範囲を示したい。

### 症例1. 21才1ヶ月女性

主訴：反対咬合、あごの曲がり

診断：下突咬合、交叉咬合、上突歯列、下突顎、偏位顎

抜歯部位：上顎は左右第二小臼歯，下顎は左右第一小臼歯を抜歯した。

治療期間：2年10ヶ月

偏位顎であったが矯正治療単独での治療を希望された。上下顎の左右的な偏位に対しては臼歯部のトルクを調整して対応した。

### 症例2. 47才10ヶ月女性

主訴：前歯で咬めない

診断：開咬合、両突歯列

欠損部位：上顎右側第二小臼歯、第一大臼歯、下顎左右第一大臼歯

治療期間：1年4ヶ月

第一大臼歯が3本，小臼歯が1本欠損しており、いずれの欠損部位にもブリッジが装着されていた。矯正治療の際にはボンティック除去によって咀嚼の能率がかなり低下するため、治療期間を可及的に短くする必要があった。

### 症例3. 50才11ヶ月男性

主訴：出っ歯、唇が閉じにくい、前歯で咬みにくい

診断：上突咬合、鉗状咬合、過蓋咬合、両突歯列、上突顎、下後退顎

欠損部位：下顎左右第一大臼歯

抜歯部位：上顎左右第一小臼歯

治療期間：5年11ヶ月

ANB11°、オーバージェット15mm、下顎前歯が上顎歯肉に触れるほどの過蓋咬合、小臼歯部が鉗状咬合と矯正学的にみて難症例であった。下顎第一大臼歯が左右とも欠損し、残存する大臼歯もエンドの問題をかかえており矯正治療期間中にいろいろな問題が生じた症例である。

澤端 喜明 先生

富山市開業 さわはた矯正歯科医院